

第4回 社会貢献事例発表会の開催報告

Contribution to Society Case Study Presentation Report

社会貢献委員会

1 社会貢献事例発表会開催の概要

平成26年2月28日 第4回社会貢献事例発表会が開催された。全国の方々にも事例発表会に参加いただくためWEB会議システムを利用し、東北・北陸・中部・近畿・四国・九州の6地域本部でリアルタイム中継を実施した。東京の発表会場に40名、WEB会議に約20名が参加した。

当日は、広報小委員会の委員長 大塚氏の司会にて、日本技術士会副会長 山崎氏の開会挨拶に始まり、3つの社会貢献事例と東日本大震災への貢献のレビューとしての発表を行った。



写真1 報告会参加者

2 事例発表概要

<発表1> 「専門（水と環境）を活かした地域の環境活動」高橋弘二（たかはし ひろじ）、環境・上下水道部会 横須賀「水と環境」研究会代表



写真2 高橋弘二氏の事例発表

地元の環境が気になり出した頃、設立後の市民環境団体・横須賀「水と環境」研究会に出会い、研究会で行う三浦半島の河川水環境調査活動を中心に、行政との協働、他団体と連携して三浦半島の環境保全活動、環境教育普及活動、委員会活動などに取り組んでいる。

社会貢献（ボランティア）活動に取り組む、継続する条件は、

- ① 健康であること
- ② 楽しいこと
- ③ 地元に着があること
- ④ 地域に認知されること
- ⑤ 仲間に不快感を与えないこと
- ⑥ 自ら企画・実行すること
- ⑦ 仲間をつくること

であると熱く語った。

<発表2> 「技術士として支える『地域をつよくなる』取組み」清崎淳子（きよさき じゅんこ）応用理学部会 エネコム株式会社 営業部長・技術統括



写真3 清崎淳子氏の事例発表

再生可能エネルギー、特に九州の豊かな地域資源である地熱エネルギーの利用促進に関わっている。技術の職にあることを活かして支援ができればと、手法を試行錯誤しつつ取組み過程を含めてのアピール活動も進めている。

ジオ・メリットとしての純国産エネルギー「地球の恵み」を活かしながら、生活の場としての地域をよりつよくしていく取組み・・・エネルギー・セキュリティの向上と共に、防災リテラシーの向上と合わせてのまちづくりを目指している。

第4回 社会貢献事例発表会の開催報告

Contribution to Society Case Study Presentation Report

社会貢献委員会

関わり方の形は様々。地域主導の会合へ参加したことがきっかけで多方面への関わりを続けている小規模な温泉地での取組みや、2010年から進めている高等専門学校生との共同研究、また、活火山地域の子どもたちと関わりながら活動する博物館学芸員への支援など、実践中の活動事例を紹介した。

技術者の心得とは何ですかの問いに対して、「わかり易く説明することがベストで、技術士会は上から目線になりがちなので、注意が必要」との苦言があった。

<発表3> 「日本型J-SCOREにより、経験と知識を活かしてベンチャー企業支援を」松井武久（まつい たけひさ）機械部会 技術経営研究センター 所長



写真4 松井武久氏の事例発表

将来、益々グローバル化が進む中、日本が維持・発展をするにはこれまでの既成概念にとらわれず、新たな発想で対処しなければならない。

その発想の1つに、「戦後の日本経済発展に貢献した団塊の世代（700万人）の活用」がある。2007年頃から職場の第一線を退いた彼らはこれまで培った知識と経験を活かし、日本社会に貢献したいと望んでいる人は少なくない。そこで、アメリカのボランティア組織 SCORE (Service Corp Of Retired Executive) をお手本にし、第一線を引退した彼らが働き甲斐を持って日本を主体に活躍できる場「日本型（J-SCORE）」を構築・充実し、日本の産業の基盤であるベンチャー企業を支援し、強いては日本国の発展に貢献することを目指している。

最後に、団塊世代の多くは、日本経済を豊かにした経験豊富な知識の人材である。

「生涯現役」をモットーに、「キョウヨウ（今日、用事がある）とキョウイク（今日、行くところがある）」に努めましょう。さらに、「ご飯を家で食わない」と締め括った。

<発表4> 「東日本大震災への技術士の貢献」日本技術士会防災支援委員会委員長 大元守（おおもとまもる）



写真5 大元守氏の事例発表

技術士の東日本大震災復興支援の取組みとして、

- ① 女川町復興まちづくりの現状と課題
- ② 福島原発事故地域の現状と課題
- ③ 福島避難者交流会・相談会
- ④ いわき市の住民懇談会・防災訓練の支援
- ⑤ 「釜石の奇跡」と防災教育・防災訓練
- ⑥ 三陸なりわい塾の開講
- ⑦ 復興支援技術士の活用

技術士会としては、被災自治体等への直接的支援、きめ細かい支援活動、そして技術士の間での連携による広範な復興支援が重要と考える。

3 全体を通して

講演のあと、社会貢献委員会の委員長 橋場氏の開会挨拶で終了となったが、活発な質疑応答のためか、予定時刻を30分程超過しての終了となった。終了後に行ったアンケートでは、「大変刺激を受けた」という意見が多数あり、社会貢献活動に参加したいと思っている人も13名にのぼり、関心の高さが窺えた。社会貢献委員会として受け止め次の活動に活かしていきたい。